

神戸女学院史研究の進展をめざして

理事長・院長 森 孝 一

史料室や図書館のスタッフの皆さんを中心に、神戸女学院の歴史資料の保存と研究が着実にに行われていることに対して、心から敬意を表したいと思います。この場をお借りいたしまして、神戸女学院における学院史研究の必要性と意義について、少し私見を述べてみたいと思います。

昨年2010年は、神戸女学院を設立したアメリカの海外宣教団体であるアメリカンボード創立200年の年でした。同じアメリカンボードによって同じ年(1875年)に創立された同志社の社史資料センター主催の企画展「まかれた種—神戸女学院と同志社」(本年4月1日～7月31日)に、本学院も協賛のかたちで参加いたしました。図書館本館1階に常設展示されている神戸山本通時代の神戸女学院の模型も、興福寺の阿修羅像を運搬した専門スタッフによって、慎重に同志社に搬入されました。

期間限定ではありましたが、これまで門外不出であった市川栄之助による『ヨハネ傳写本』と小磯良平画伯による「タルカット像」のオリジナルを貸し出すことを決断させた要因は、史料室、図書館、院長室のスタッフとともに同志社社史資料センターを訪れて見せていただいた、保管・展示施設の充実ぶりであったと思います。一流の博物館と比べても見劣りしない程の、光、温度と湿度、セキュリティへの配慮の行き届いた施設と設備は、羨ましいものでありました。

企画展に合わせた公開講演会での講演を依頼され、同じアメリカンボードによって同年に設立された神戸女学院と同志社のその後の歴史について、少し学

ばせていただきました。そこで改めて確認できたことは、同じアメリカンボードによって設立されたにもかかわらず、両校が独自の歴史を歩んできたという事実でした。

アメリカンボード研究は同志社においては、これまでも積極的に行われてきており、それなりの成果をあげています。しかし、本学院とアメリカンボードの関係史研究は、まだまだ不十分であると言わざるを得ません。本学院のアメリカンボード関係史料の研究を進めることによって、日本におけるアメリカンボードの宣教活動の全体像が、より明確に浮かび上がることでしょう。これは同時に、日本における女子高等教育史、日米キリスト教関係史だけでなく、アメリカ・キリスト教史研究にとっても大きな貢献となるものであると思われます。

神戸女学院史研究の進展の必要性の第二は、本学院の教育にとっての重要性です。神戸女学院の建学の精神は、「キリスト教に基づいた人格教育」であることは言うまでもありません。しかし、他のキリスト教主義学校と神戸女学院は、どこがどのように違うのか？神戸女学院のキリスト教教育の独自性は、どこにあるのか？これが神戸女学院史研究によって明らかにされ、学生・生徒が発掘された神戸女学院の「物語」を自分の「物語」として誇りを持って受けとめるとき、神戸女学院の「スクール・アイデンティティ」が明確なものになるに違いありません。立教大学には「立教科目」があり、同志社大学には「同志社科目」があります。学院史研究の成果が充実したあかつきには、「神戸女学院科目」設置の可能性も見えてくるように思います。

神戸女学院史研究の進展の必要性の第三は、2025年に迎える創立150周年との関係です。遙か先のことのように思えるかも知れませんが、14年後のことなのです。神戸女学院にとっての一つの大きな節目となる150周年のために、神戸女学院の歴史から何を学び、何をめざしていけばいいのか？今後計画されるであろう記念事業とは別に、地道で着実な歴史研究を今から始めなければなりません。そのための研究体制の整備、とくに教員レベルにおける体制づくりが求められているのではないのでしょうか。